

臼杵市立福良ヶ丘小学校

学力向上プランの概要

- ① 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題の分析
- ② 組織的な授業改善の取り組み
- ③ 自分の思いを表現し、ともに認め合い、よりよくつながり学び合う授業作り
 - ・「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業

効果のある取組事例

- ① 授業改善の取り組み
 - 学習意欲を高める課題の設定
 - 自分や友達の考えを表現する活動の設定
 - 子どもの考えを元にした学習のまとめ
 - 定着を図る終末の工夫
- ② ICT機器等を活用した授業実践
 - ロイロノートスクールを活用した授業実践
 - Keynote を活用したプレゼンテーション力の向上
 - 協調学習の取り組み
- ③ 家庭・地域との連携
 - 学習指導の手引きの作成・活用
 - 週末親子読書の取り組み
 - PTA研修部の読み聞かせ活動の取り組み
 - 地域のゲストティーチャーの積極的な活用

学習指導について

2019. 4. 4 (木)

学力向上部

1. ノート指導について

- ノート名人の手引き（別紙1）をふまえ、全校統一のノート指導にできるだけ取り組む。
 - 授業開きの時に、別紙の「ノート名人の手引き」を扱い、ノートの表紙などに貼らせる。
 - 板書とノートの一体化を常に意識する。
- ノートの取り方の上手な例のコピーを掲示して紹介・交流を図り、意欲づけを図るなどの工夫を。

○使用するノートの目安（参考までに）

国語・・・1年	8マス→12マス（漢字：50字）
2年	12マス→15マス（漢字84字→100字）
3年	15マス→18マス（漢字：104字→120字）
4年	18マス、もしくは12行縦罫（漢字：120字）
5年	12行縦罫（漢字：150字→200字）
6年	15行縦罫（漢字：200字）
算数・・・1年	横長 10マス×横6マス→縦長 10マス×14
2年	縦長 10マス×14マス
3年	12マス×17マス
4年	12mm方眼
5年	5mm方眼
6年	5mm方眼

前担任にノートの使用状況をたずね、前学年で使っていたものを引き続き使うか、新しく購入し直すかは弾力的にお考えください。

- 学習の足跡を残し、子どもに自己肯定感をもちたせるひとつとするために、一年間分のノートをまとめて綴じ、ほめるなどの工夫をする。

2. 学習用具について・・・別紙2を子どもたちに配布し、家庭での準備に役立ててもらおう。連絡帳などに貼らせる。

3. ファイリングについて

- 学習の足跡を残す習慣を身につけさせるため、ファイリングをさせる。
 - A版用（チャレンジプリント用1冊）＜学校で一括して購入＞
 - その他プリント（宿題プリント・テスト）のファイリングについては、子どもの実態等によりそれぞれ判断する。
- 家読ブッククラブのプリントをファイリングするためのクリアファイルを購入。＜学校購入＞
- 前学年までの常用漢字チェック帳に当該学年の漢字プリントを挿入し、綴じる。

4. ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりのために

【ユニバーサルデザインの考え方】

・「どの子どもも活かされる授業」「どの子どもにも分かる授業」⇒すべての子どもが授業に参加し、学習内容を理解する。

【学級経営する上での7つの視点】※具体例は、バンドブック参照のこと

- ① 関係づくり・・・子どもにとって安心・安全な学校・教室であるということ。
 - ➔ 一人ひとりの違いを認め合える（その子どもの特性をその子のよさとしてとらえられる）雰囲気をつくる。
 - ➔ 子ども同士のかかわりを重視する（ペアやグループでの活動を多く仕組むなど）。
- ② 教室環境・・・子どもが教室内で何をどうしたらよいか困らないための支援。
 - ➔ 整理整頓の仕方・その日のスケジュール・視覚刺激に配慮した環境調整・座席配置の工夫
- ③ 学習や生活のきまり・・・みんなが安心して過ごすためのきまりを視覚的にわかりやすく提示する工夫。
- ④ 授業の組み立て・・・すべての子どもが主体的に授業に参加するための支援。
 - ➔ 学習用具準備に困らないために準備物を視覚的に提示。忘れ物対策をする。
 - 学習の流れがわかるように学習の流れボードを提示する。→授業のゴールを知らせる。
 - 全員が授業に参加するため課題は子どもの疑問から生み出しを図り、子どもの言葉で設定。
見通しをもたせる。→考えをもたせるための手ごかりをもたせる。
交流の仕方を工夫する。→ペア・グループ交流。
まとめは子どもの言葉で。→大切なところは色チョークで囲むなどの手立てが必要。
ふりかえり（練習問題）をし、「できた、わかった」感をもたせる。
- ⑤ 教師の話し方、発問や指示・・・子どもたちに自信をもたせるための支援。
 - ➔ 肯定的な表現の仕方です。→ほめるときはみんなの前で、言動の改善を促すときは個人的に。
 - ➔ 指示は、一つずつ簡潔に（実物・絵・写真を使って説明し、やってみせ、させてみる）。
 - ➔ 「静かにしなさい。」ではなく、子どもが自ら判断して静かにしようとするの（気づき）を待つ。
- ⑥ 板書の仕方とノート指導・・・どの子どももパッと見て大切なことがわかる（今何をしているかわかる）板書の工夫。
 - ➔ 見えやすさを考慮したチョークの色→課題は蛍光ピンク、まとめは蛍光黄色がおすすめ。
 - ➔ 『丁寧に書いてよかった』と子どもが思えるためのノート指導を工夫する。シール、コメント。
- ⑦ 教材・教具・・・予想される子どもの困りやつまづきに対応した教材・教具の準備。
 - ➔ 導入で実物・絵・写真などを提示して、興味をもたせる。
スモールステップ化した教材・教具を使い、「できる」につなげる。

※いきなりこのすべてをやるということではなく、できることから一つずつ！

めいじん て ノート名人の手びき

さんすうへん ～算数編～



【算数ノートの書き方のポイント】

- ① ^{あたら}新しいページから^か書きはじめよう。
- ② 数字や文字はマスの中に書こう。間^{あいだ}をあけて見やすく書こう。
- ③ まちがえても消さず^けに、新しく^{かんが}考えを書こう。
- ④ どんな^{せん}線も、ものさし^{つか}を使ってまっすぐひこう。

【算数ノートに書くこと】

①

4 / 15 わり算

② 問題

問

(※教科書で確認できたら、書かない
こともあります。鉛筆で囲みます)

③ 課題・めあて

課

(※その日に学習することです。めあ
てになることもあります。赤で囲みま
す)

④ 自分の考え

考

※自分の考えや、そう考えたわけを、
友だちにわかりやすいように言葉、数、
式、図、表、グラフなどを使って、くわ
しく書こう。

友

⑤ 友だちの考え

※自分が考えつかなかった友だちの考えを
メモしよう。

⑥ まとめ

ま

(※その日の課題に対する答えです。
青で囲みます)

練

⑦ 練習

※その日わかったことを使って、たくさん
練習問題をしよう。

ノート名人は算数名人！

すこ
少しずつじょうずになろうね。

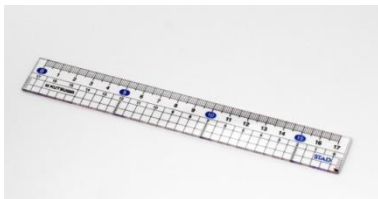
べんきょう たつじん どうぐ 勉強の達人の道具



【達人の心得こころえ】

- ①かざりがついたものよりも、つかいやすいものをつかうべし。
- ②においがあるものよりも、よく消えるけしゴムをつかべし。
- ③べんきょうにつかう本当に大事なものだけをもってくるべし。

【ふではこのなかみ】



①えんぴつ 4、5本(HB~2B)

②書き方えんぴつ1本(2B)

③赤青えんぴつ1本

④よく消える消しゴム1こ

⑤ものさし(15センチメートルていど)

※高学年だけ⑥けいこうペン1本

すべてのものに名前を書こう！

①②③のえんぴつは、家で毎日けずって、もってきてましょう。